

「葬儀業は『究極のサービス業』」 ネット・省スペース・情報化：時代に即し 故人の輝きを偲び遺族の悲しみに寄り添う

和光葬儀社



骨壺とご位牌を合体させた、新しい納骨の形「収骨位牌」

つれ大きく変化している。同社では、ネット検索で上位に出るようホームページを整備したり、多数の案件を確保して一定料金の明朗会計に努めたり、オープンな情報を伝えることでリピートや紹介につながっている。また、無料で草むしりや掃除をお手伝いしたり、施設担当者への勉強会を通じ知識の共有を図るなど、営業努力も欠かさない。

新規事業として、特殊な粉骨機械を導入し、横浜市から依頼された納骨堂に納める遺骨の粉骨業務が今年4月から稼働する。また、保管場所やお墓などのスペースや金銭的問題を解決する一助として、骨壺とご位牌が合体した独自製品「収骨位牌」を開発、特許を申請中である。



20年以上葬儀業に関わってきた渡邊智史社長

和光葬儀社（株式会社和光商事、横浜市港北区小机町、渡邊智史社長、045・595・9541、<http://www.wakousougisya.com/>）は、人生の最期に携わることに襟を正し、その輝きをお見送りするお手伝いができることを誇りにしている。平成27年8月設立と業歴こそ浅いものの、渡邊社長は学生時代の葬儀社でのアルバイト経験から20年以上葬儀業一筋で、業界内外からの信頼も厚い。

生きてきた輝きを偲ぶための場所に、ご縁で結ばれた方々が集い、他でもない「その人」のために想いを馳せる。ご葬儀とは「その人」への想いを形にする儀式であり、「その人」だけの輝きがそこにあることが大切である。そんな一つひとつの輝きのために、スタッフ一同精一杯お手伝いし、「いいお葬式を、ありがとう」そんな言葉に励まされている。

葬儀に対する価値観や見方は、高齢化や核家族化など時代の変遷に

